



### 〔海の状況 (4/16 ~ 5/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 4月中旬から4月下旬にかけて平年並み(±0.5℃)で推移し、5月上旬から5月中旬にかけて概ねかなり高め(平年差1.0℃~1.5℃)で推移した。
- ・米ノ地先の表面水温… 4月中旬から4月下旬にかけてかなり高め(平年差1.0℃~1.5℃)で推移し、5月上旬から5月中旬にかけて不安定であった。



図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

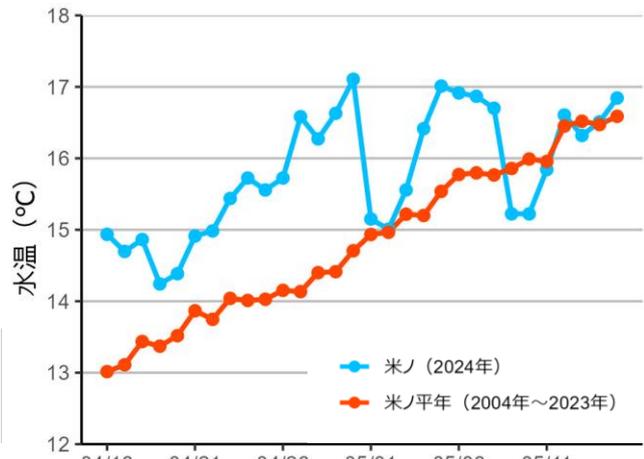


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

### 〔若狭湾および周辺海域の海況：4月〕

4月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布について、今年の水深50mの10℃~12℃の範囲は昨年同時期と比較して大きかった。水深100mの6℃~10℃の冷水域の張り出しは昨年と比較して大きかった。水深200mでは、0℃~4℃の範囲が昨年と比較して大きかった。(図3)

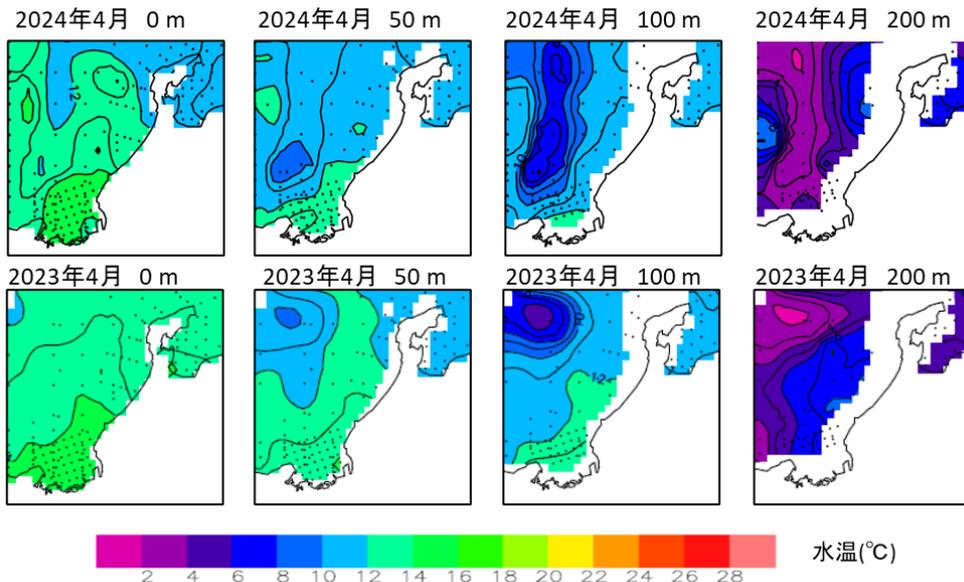


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

## 2024年度 日本海マアジ長期漁況予報

水産研究・教育機構が2024年4月から9月までの日本海マアジ長期漁況予報を発表しましたので、その概要をご紹介します。

- ・日本海の来遊量は前年（2023年4月～9月）並みで、平年を下回る。
- ・15～22cmの1歳魚が主体で、5～15cmの0歳魚と22cm以上の2歳魚以上も漁獲される。

この予報は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構ホームページ (<https://www2.fra.go.jp/xq/>) から閲覧できます。

(漁場環境グループ 矢倉 卓磨)

### 〔県内の漁模様：4月〕

2024年4月の県内の総漁獲量は830 tで、前年同月を232 t上回り、平年を87 t下回った。

#### 〔定置網〕

漁獲量は203 tで、前年同月を10 t下回った。ブリ類、サワラ等が上回り、アジ類等が下回った。

#### 〔底びき網〕

漁獲量は544 tで、前年同月を231 t上回った。カレイ等が上回り、ホタルイカ等が下回った。

#### 〔釣り・その他〕

漁獲量は83 tで、前年同月を11 t上回った。ツバス等が上回り、タコ類等が下回った。

**表. 主要魚種の漁法別漁獲量(4月)**

定置網 (kg)						底びき網(続き) (kg)					
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
イワシ類	2,732	1,222	22,596	1,511	-19,864	メバル類	2,031	931	1,333	1,100	698
(マイワシ)	2,369	39	18,647	2,330	-16,278	ニギス	2,146	1,337	1,626	809	520
アジ類	4,022	35,038	37,480	-31,016	-33,458	ヤリイカ	87,846	105	108	87,741	87,738
(アジ)	2,996	26,362	20,088	-23,366	-17,092	ホタルイカ	124,961	133,039	213,134	-8,078	-88,173
サバ類	1,327	2,412	6,105	-1,085	-4,778	タコ類	3,040	1,449	3,635	1,591	-595
(サバ)	1,321	2,411	5,797	-1,090	-4,476	アカエビ	56,498	32,139	40,262	24,359	16,236
マグロ類	4,765	11,194	3,823	-6,429	942	その他エビ	9,881	5,276	5,410	4,605	4,472
ブリ類	120,622	100,408	125,265	20,215	-4,642	アンコウ	3,051	1,452	1,954	1,598	1,096
(ブリ)	14,962	78,122	58,279	-63,160	-43,317	カワハギ	1,629	2,022	3,509	-393	-1,880
(ワラサ)	8,123	19,304	27,456	-11,181	-19,334	タラ	1,466	602	1,361	863	104
(ハマチ)	1,800	1,577	5,563	223	-3,763	その他	11,427	8,784	16,886	2,643	-5,459
(ツバス)	95,738	1,405	33,965	94,333	61,773	合計	543,645	312,203	437,643	231,442	106,002
ヒラマサ	2,142	1,076	1,843	1,066	299	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
サワラ	32,126	17,720	60,260	14,406	-28,133	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
タイ類	7,652	8,670	14,064	-1,018	-6,412	ブリ類	6,061	1,721	6,805	4,340	-744
(マダイ)	6,881	7,605	13,396	-724	-6,515	(ツバス)	5,283	55	2,706	5,228	2,578
スズキ	2,196	3,701	8,091	-1,505	-5,895	タイ類	6,415	4,842	6,106	1,573	308
フグ類	7,079	3,544	64,842	3,535	-57,762	(マダイ)	1,303	1,291	3,140	12	-1,837
コウイカ	2,729	4,075	1,998	-1,346	731	(キダイ)	4,967	3,385	2,733	1,582	2,234
ウマツラハギ	3,960	710	1,637	3,250	2,323	アマダイ	3,161	2,089	3,586	1,072	-425
カワハギ	2,339	1,506	3,169	833	-829	ヒラメ	6,156	1,925	3,982	4,232	2,175
その他	10,018	22,818	25,247	-12,800	-15,229	カレイ類	3,368	2,129	8,047	1,239	-4,679
合計	203,711	214,093	376,419	-10,382	-172,708	(その他カレイ)	3,360	2,099	7,960	1,261	-4,600
底びき網 (kg)						フグ類	1,527	365	1,146	1,162	382
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差	メバル類	4,409	2,645	7,113	1,764	-2,704
(サバ)	1,438	624	327	814	1,112	コウイカ	2,533	2,410	2,415	123	118
タイ類	9,833	9,427	6,799	406	3,034	タコ類	5,874	8,025	8,657	-2,151	-2,783
(マダイ)	4,785	2,745	2,699	2,039	2,086	ツブ貝	2,022	275	827	1,747	1,195
(キダイ)	4,470	6,335	3,869	-1,865	601	ナマコ類	12,356	8,016	9,787	4,339	2,569
スズキ	4,842	3,835	2,504	1,007	2,339	その他	28,755	36,806	44,175	-8,051	-15,420
ヒラメ	4,933	2,640	3,949	2,293	983	合計	82,637	71,247	102,645	11,390	-20,008
カレイ類	195,787	88,041	109,250	107,746	86,537	全漁法 (kg)					
(アカガレイ)	114,769	59,973	71,596	54,796	43,172	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
(その他カレイ)	81,018	28,068	37,654	52,951	43,365	合計	829,993	597,543	916,707	232,450	-86,714
フグ類	10,553	19,352	9,876	-8,800	677						
アナゴ	1,287	943	2,330	345	-1,043						

※1 平年の値は2014～2023年の10年平均です。 ※2 ( )は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。 ※3 アンコウ、ナマコ類の平年値は2015～2023年の9年平均です。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

### 〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：4月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：4月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：4月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：3月中旬～4月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マイワシ35 t、サワラ・サゴシ1.2 t、スルメイカ0.8 t、マサバ0.7 t、マアジ0.5 t

京都府…定置網…マイワシ27.4 t、ブリ類6.6 t、カタクチイワシ1.6 t、サワラ1.1 t

兵庫県…定置網…イワシ2,074 kg、マサバ46 kg、マアジ38 kg、マグロ類2.5 kg、サワラ2 kg、ヤリイカ2 kg

鳥取県…まき網…マイワシ86 t、マサバ3.4 t、ブリ類0.8 t、マアジ0.2 t

(漁場環境グループ 矢倉 卓磨)

## 内水面漁場を外来魚から守るために

滋賀県琵琶湖のオオクチバス、ブルーギル、岐阜県長良川のコクチバス、茨城県霞ヶ浦のチャネルキャットフィッシュ。皆様の中には、これらの外来魚に関する報道を耳にしたことのある方も多いのではないのでしょうか。外来魚は在来魚を捕食し、親が仔を守ることで爆発的に増殖することから、従来の生態系を破壊し有用な水産資源に影響を及ぼす危険性があります。実は福井県でも外来魚が確認されており、水産課および内水面総合センターでは対策を進めています。今回は、内水面総合センターの取組みについてご紹介します。

### ○調査内容

内水面総合センターでは、漁場における生息状況を監視するため、三方湖と九頭竜湖の2地点で外来魚のモニタリング調査を実施しており、三方湖ではカゴや小型刺網を使用したオオクチバス、ブルーギルの採捕、九頭竜湖では小型刺網、大型刺網を使用したコクチバスの採捕をしています。また、採捕された外来魚は解剖し胃内容物の分析を行うことでヤマメやコイ、フナなどの有用魚種の被害状況を調べています。



図1 ワカサギを食べていたオオクチバス (左)、ヤマメを食べていたコクチバス (右)

### ○これまでの調査結果

三方湖のブルーギルについては、捕獲尾数が平成27年度をピークに減少傾向にあるものの、捕獲重量は横ばい状態となっています(図2)。これは捕獲尾数の大半を占めていた体重3g程度の当歳魚が捕れなくなり、体重150g程度の親魚の捕獲尾数がそれほど減少していない状況を反映したものと考えられます。

九頭竜湖のコクチバスについては、年変動はあるものの令和3年度以降は捕獲尾数、捕獲重量ともに増加傾向にあります(図3)。近年、九頭竜湖より下流域においてもコクチバスの捕獲情報が相次いでおり、生息域拡大防止策を早急に進める必要があります。

### ○外来魚をこれ以上広げないために

外来魚対策として重要なことは、駆除活動の継続と外来魚問題の啓発活動です。一度侵入してしまった外来魚をゼロにすることは現実的には難しいですが、地道な駆除活動によって低密度の状態を維持できれば、外来魚による被害から有用魚種を守ることにつながります。外来魚の中でもオオクチバスやコクチバスはスポーツフィッシングの対象となっており、他県では密放流がきっかけでこれらの魚が侵入するケースが多いです。駆除イベントの実施などを通して地域住民や漁業協同組合、県が外来魚を歓迎していない姿勢を示すことが重要だと考えています。

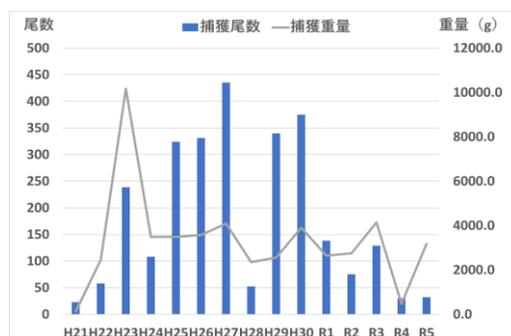


図2 三方湖ブルーギルの捕獲尾数・重量の推移

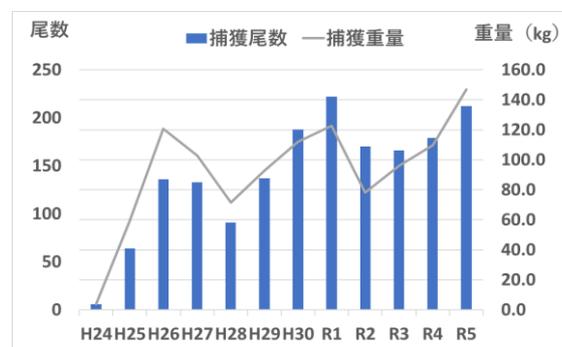


図3 九頭竜湖コクチバスの捕獲尾数・重量の推移

(内水面総合センター 竹内 一貴)